

# 移住者・協議会交流会開催

## なんもく 山村ぐらし通信

山村ぐらし支援協議会が活動をはじめから3年が経とうとしていす。この間に村内の空き家情報を利用して移住を果たされたのは12世帯。先日、ご都合のつく移住者10名ほどの参加を頂き協議会メンバー約20名、合わせて30名ほどの参加者で初めての交流会を開催することが出来まし

協議会が活動をはじめようになつてから、南牧村に移住してきた方々との交流会を行ったのは先月1月26日(日)。予想以上の参加申し込みを頂き、協議会側の参加希望メンバーを合わせて30人近い人数での交流会は、会場となつたふた間続きの和室空間がいっぱいになるほどの賑わいとなり、和やかに、やがて賑やかに時を忘れて盛り上がりを見せてくれました。

協議会にとつて初めての企画ということもあり、準備段階ではどこから手を



場が和んできたころあいにパシャリ！

つけてよいものかと行き感うこともしばしばでした。移住者の皆さんも協議会メンバーも膝を交え、ときには膝頭がぶつかり合うほどに語り合い、笑い合い、意見を交換し合い、それぞれがお互いに意義のある交流を持てたのではないかと感じています。

村外からの移住者という立場です。やはりそれまでの生活環境との違いや、この村のこの地域がながく伝えてきたしきたりや慣例など、あるいは戸惑うような出来事もあつたかもしれません。郷に入つては・・・という使い古された言葉もありますように、移住してきた方々はこの地に少しずつ馴染んでゆくために、この村で

の生活を理解し、受け入れることができると必要になることと思ひます。と同時に、ながくこの村で暮らす住民の皆さんにも、新たに移り住んできた移住者の方々に“郷に入つては郷に従う”という一方通行にならないよう、受け入れる側も

25年度7～12月空家問合せ件数

電話による問合せ	計37件
(7月)	14件
(8月)	3件
(9月)	1件
(10月)	4件
(11月)	9件
(12月)	6件

メールによる問合せ	計9件
(7月)	1件
(8月)	2件
(9月)	4件
(10月)	2件
(11月)	0件
(12月)	0件

来村空家物件訪問	計14件
(7月)	4件
(8月)	4件
(9月)	1件
(10月)	0件
(11月)	4件
(12月)	1件

2014(平成26)年2月号  
通巻第8号版(冬季号)

発行責任者: 神戸 広  
問合せ: 南牧村役場 企画情報課  
電話: 0274-87-2011(代表)

紙面編集: 協議会広報班  
発行元: 南牧山村ぐらし支援協議会

山村ぐらし支援協議会  
QRコード



http://www.nanmoku.ne.jp/~sanson/

〔子育て支援情報第一弾〕

(一) 結婚祝金を支給  
(二) 出産祝金を支給  
(三) 保育料の免除(四) 学校給食費の免除(五) 高等学校等の入学に対する補助金の交付(六) 高等学校等への通学に対する補助金の交付(七) 子育てをしている者の転入に対する奨励金の交付等々。なかには現状の理解をあらためて深め実態に即した支援となるようさらなる改善を期待する施策もあるようです。

役場の方の言葉を借りれば、『村では、人口減少の防止、人口増加の定着化や子育て世代の増加を図り、次代を担う子どもを安心して育てられる環境をつくり地域の活性化に資することを目的として次の施策などを実施しています。』というお手本のような説明と幾つかの子育て世代への支援内容を入手しました。

## 我・想・明・村

～この村で日々の暮らしを送りながら感じる  
想いを寄稿していただき～

街で学生をしている我が家の息子が「できれば卒業したら南牧に帰ってきたいなあ!」と言っていた。やはり故郷っていいですね?  
人がいい! 空気がいい!  
水がいい! 自然がいい!  
と言われる南牧村。もともととよくできませんか?  
南牧に帰りたい! 南牧に行ってみよう! 南牧に住みたい! 南牧に住みたい! 南牧に住みたい! 南牧に住みたい! 南牧に住みたい! 南牧に住みたい! 南牧に住みたい! 南牧に住みたい! 南牧に住みたい!

年も明け寒い日が続く、ふと考えてみる。今年5月で50歳になるとうし、南牧で仕事をしだして25年、南牧に移住して21年が経ち4半世紀を、そして人生の半分を南牧でお世話になっていきます。

商工会青年部や消防団など村の各種団体にも参加させていただし、先輩方のおかげで南牧に溶け込むことができました。

あの頃は何か口実を見つけては集まり、集まれば遅くまで酒を飲み議論しあつて活気ある時間を過ごしました。

また配達などでお客さんのお宅にお邪魔すると、1時間も2時間もお茶をご馳走になりながら昔の話を聞かせてもらい、今ではすっかり南牧通にもなりました。しかしそんな南牧の現状といえは・・・

私がお世話になりだした1990年頃の南牧の人口は約4400人、現在の人口は約2400人と約2000人もの人口が減少してしまいました。そして高齢化率は全国一という現

岩井 万芳氏寄稿

空家の有効利用

すが、なんだか子供たちの歓声が聞こえてきそうな一枚ですね。



写真のスケート場。さてどのスケート場でしょう？昔はこんなところがあったんですね・・・びっくりです。

これからも南牧村の今昔を探し出して紹介して行きたいと思っておりますので、面白い写真や情報がありましたらお知らせください。

昔は、南牧村にも川を堰き止めて造ったスケート場が各地区にありました。その中でも、写真のスケート場は大きく、多くの子どもたちがスケートを楽しみました。冬休みの日には、路線バスを利用して滑りに行き、尾沢小・月形小・磐戸小があったときは、3学期の交流学习はスケートなどを行ったものです。この写真を見て、南牧村にもスケート場があったことを初めて知る方。『おぉー！なつかしい！よく滑りに行ったよなあー！』と、懐かしく思う方もたくさんいると思います。画像は質が荒くかなり見辛いです。



現在のスケート場付近の様子

協議会からお願い

現在、村内に移住を検討している来村者の方に紹介できる空家情報が不足しています。空家所有者の方や情報をお持ちの方からのご理解とご協力をお待ちしております。空家の有効利用にご理解とご協力を！

体験民家雑記帳より

日向雨沢地区の「体験型民家」が運用を始めてほしかった。なんていうコメントも。開始して1年と2ヶ月が経過。引っぱり無しとは行かないまでもポツポツと利用者がいるようです。ご利用いただいた後に残された雑記帳を覗いてみました。まだ最近の利用でしょうか？『寒さがきびしい！』なんていうコメント。『自然環境がベリーグッド』なんていうコメントも。皆さんそう言ってくれます。なかには『レースのカーテンがあればよかった』『草刈を早くやります。それではまた次回。』

都会と田舎の共生

～ふるさと再生を・神戸とみ子～

縁は異なるものの味なもの。先祖を辿ると母方の出身が南牧村、父方は東京、戦後の混乱期、東京に居た家族が疎開で一宮へ引越して産声をあげたのが私。高校時代に写真部を率いて三段の滝を撮り富岡市で甘楽四高合同写真展を開いた思い出。私が嫁いで来た頃は小学校が三つ中学校が三つ保育園も二つあり、磐戸・月形・尾沢と三地区が行き交う賑やかなものでした。我が家もおじいさんおばあさんが居て漫才のような大家族。子育てに携わりPTA活動二十二年間の歳月は語り尽くせず統合騒動も懐かしい思い出です。三世代が同居して自然に受継ぐ伝統や思いやりの心は、失いたくない「ふるさと心」でした。あらゆる地域活動や商工会イベント手伝い、5人の子育てしながら村内外各地、繋がり大切に奮闘。色々な経験を生かしてスクールボランティアで恩返しをしながら、元気な子供達に意欲を費やっています。

ライフ活動を通じて日刊ブログ新刊「ぶらっと」の地域ライターとなり全国に地域発信を始めました。村の活性化の為に自分が出れる精一杯を思いお祭りやイベントに企画。未来ある子供達が立派に育つても地方では雇用が無く、村を出て行かざるを得ない現実が悔しくて息子達とのメールのやり取りに涙。今、日本中至る所に起きていく問題、少子高齢化の現実が浮き彫りに。だからこそマイナスマスをプラス思考にと、高齢化率日本一と話題を呼ぶ程の存在になり、かえって「なんしいちやん」の存在でクローズアップ。空き家対策事業で「山村ぐらし支援協議会」に参加して夢膨らみ、下仁田町のジオパーク構想や富岡市の片倉製糸場跡地の世界遺産登録などに便乗して活性化への糸口になれば幸いです。だと地域発信中の私です。



3年間の活動紹介

南牧山村ぐらし支援協議会は、空き家を活用した田舎暮らしを促進することを目指し平成22年12月15日に設立。その後7ヶ月間をかけ村内全域で空き家調査を実施し368件の空き家を

把握。9月にはなんもくTVかわら版で調査結果報告。このころからTV・新聞等メディアにおいて当協議会や空き家バンクのことが紹介され始めること。その後建物の内部調査が可能物件を対象に間取りや家の状態の調査を開始。また東京・銀座にある「ぐんまちゃん家」で行われる「ぐんま山村移住相談会」に参加し南牧村のPRなどを行うなどの活動と平行してメンバーで会議を重ね「体験型民家」や「山村ぐらし通信」の発刊について検討を開始。平成24年度は空き家調査・内部調査も引き続き実施。5月には『山村ぐらし通信』を創刊。9月には、休養村センター敷地内に「山村ぐらしの看板」を設置。また、10月29日は雨沢地内に『体験型民家』の運用を開始し利用状況も順調である。平成25年度も引き続き空き家調査・内部調査を実施。山村ぐらし通信は村内全戸に配布。また、南牧村役場、協議会メンバーのお店、オアシスなんもくの他、群馬県庁、ららん藤岡などに置かせて頂き村内外へ発信。「山村ぐらし通信」ではこれからもいろいろな角度から『南牧村』を発信していきますので、村への思いを一筆寄稿いただければ嬉しい限りです。